

H学部長：総務委員会（学部の）でかなり厳しい批判がでた。選考会議の審議内容をオープンにし、意向投票の透明性をあげることが、今後必要であろう。

I学部長：本学部でも組合から発言するよう要請があった。今回は想定外のことであった。今後見識ある議論が必要である。さきほど指摘があった、任期の問題や懇談会の問題など検討が必要である。

A評議員：制度の問題が続いているので、この際、発言しておきたい。

学長選考会議に理事をいれることは慎重にして欲しい。選考委員会に学長の任命した理事が多いと問題である。2年前の選考委員の選出のとき学長は、学長選考規定を作るのが仕事と説明した。いつのまにか、学長選考までやっちゃっている。

学長：（首を捻りながら）2年前誤解をあたえるような言い方をしましたかね。

J学部長：撤回せよといわないが、学長はみなさんが納得するようなことを何か言わないと締めくくれない。ひとこと学長がなにか表明して欲しい。

Y研究科長：もう一度聞く。一票でも多い投票結果に従うのか従わないのか。

学長：ケースバイケースである。

Y研究科長：くりかえすが、あなたの信念を尋ねている。

学長：（返答なし。）

E学部長：この際だから言うておくが、病院長を理事に入れないのはおかしい。

K評議員：理事体制を一新して新しい形をつくらなければ収まらないのではないか。

L学部長：決議を出した学部です。疑問がだされ混乱が生じている。学長に慎重な対応を求めたい。

学長：（ほとんど聞き取れない声で）今日のところは、ここまでということで。次回の評議会は1月13日です。